

●自然体験③

キャンプファイヤー (動画あり)



概要

1日の活動の締めくくりや、宿泊学習をふりかえるセレモニーとして、仲間と共に赤々と燃えるひとつの火を囲みます

人数

【屋外】

・くわの実広場 約200名

【屋内】

・多目的ホール 約100名

対象

・未就学児～



実施期間

・通年

所要時間

・60～90分程度

(会場設営・準備作業を含む)

活動場所

- ・屋外(どんぐり広場、くるみ広場、しらかば広場、くわの実広場)
- ・屋内(多目的ホール)

指導のねらい

- ・1日の活動を振り返る場面として、対話的な学びを促す

活動のながれ①

【事前学習】

- ① 「なぜ、キャンプファイヤーを実施するのか？」の目的を共有する
- ② どのような集いにしたいかを想像する
- ③ キャンプファイヤー係(準備係、営火係、点火係等)の役割分担が必要であれば、決めておく
- ④ トーチ棒を作成する(※別紙参照)

【当日】

<屋外>

～準備～

- ① 事務室から、無線機と放送設備用具を借りる
- ② 半地下炊事場にあるリヤカーを広場へ運ぶ
- ③ 営火場のブロックに薪を組む※(別紙)資料参照
～後片付け～

① 燃え殻に水をかけ、完全に消火してから、燃え殻入れ(ドラム缶)に入れる

② 使った道具、放送設備の電源などを復元する

③ 無線機、放送設備用具を事務室へ返却する

<屋内(多目的ホール)>

～準備～※職員立ち合い

- ①防火マット(5枚)を排煙ダクトの真下に敷く
- ②敷いたマットの上にファイヤープレートを運ぶ
- ③ファイヤープレートの上に井桁を組む
- ④灯油用バケツを使用し、トーチ布に灯油を染込ませる
その後、トーチは布を下にして立てて保管する

～後片付け～※職員立ち合い

- ①キャンプファイヤーが終了したら、放送室の内線電話で事務室まで連絡する
- ②燃え殻用リヤカーにバットを乗せ、多目的ホール内に運ぶ
- ③バットをリヤカーに乗せたまま、スコップで燃え殻をバットに移し、別のバッドで蓋をした後、野外ステージへ運ぶ
- ④ファイヤープレートを片付け、防火マット上に飛び散った灰やゴミを野外ステージで処理する

準備物品

【団体で準備するもの】

- ・トーチ棒、着火ライター、古新聞・軍手(木綿のものを、準備係・営火係・点火係の人数分)

【山の家で貸出(提供)可能なもの】

- ・無線機・設火場放送機器の鍵、ワイヤレスマイク、灯油用バケツ、リヤカー(資材・用具運搬用)
- キャンプファイヤーセット※井桁8、薪束3、灯油(有料3,500円)

【屋外で備え付けの設備および物品】

<設備>

- ・照明、放送設備(マイク・CD・iPod・iPhone)

<物品>

- ・灯油用バケツ、リヤカー(資材・用具運搬用)、スコップ、消火用ホース

【屋内(多目的ホール)で備え付けの設備および物品】

<設備>

- ・照明、放送設備(マイク・カセット・CD・iPod・iPhone)

<物品>

- ・ファイヤープレート、防火マット、灯油用バケツ、燃え殻用リヤカー、バット、スコップ

留意点・備考

【全体の留意点】

- ・やけどを防ぐために、長袖・長ズボンを着用する
- ・用意された薪以外のものを燃やさない
- ※打ち上げ花火は禁止

【屋外の留意点】

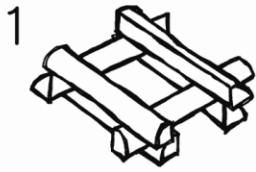
- ・防寒、防虫対策に配慮のうえ実施する
- ・他の営火場で活動している団体の迷惑にならないよう、マイクや音楽のボリュームなど気を付ける

【屋内(多目的ホール)の留意点】

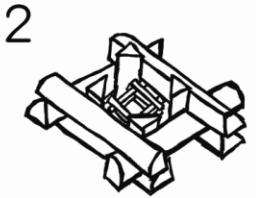
- ・室内(多目的ホール)で実施する場合は、火災報知器が作動するため、火をつけたトーチ棒は速やかにダクトの下へ運ぶ
- ・複数の団体が連続利用する可能性があるため、割当てられた時間内で準備から後片付けを行う

— 資料 —

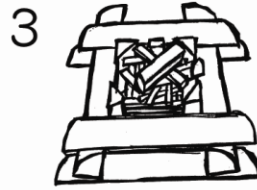
(1) 井げたの組み方



1 井桁用の太い薪を「井」の字型に組む。



2 井桁の四角に角材を立て（強度を上げ燃え尽きるのを遅らせる為）、更に中に井桁を組む。この時、燃えやすいように空気の通り道を作る。



3 小さい井桁の上に細い薪を数本置くと火がつきやすく「パチパチ」と音を出す効果もある。

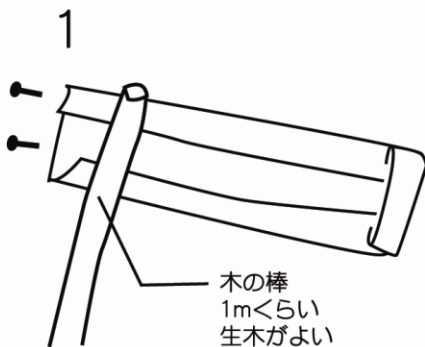


4 周りの角材や太い井桁薪を利用し、中心に向かって薪を立てかける。（中心に薪を1本置き、そこに向かって立てかけ、最後に中心の薪を抜いてもよい。）

※井桁を組む際は予めトーチを入れる隙間があるか確認しましょう。
※余った薪は火の様子を見ながら加減して足していくとよいでしょう。
※灯油を使う場合は一気に燃え上がってしまうので、かけすぎないように注意しましょう。

(2) トーチ棒の作り方

途中で壊れるととても危険なので、トーチ棒はしっかりと作りましょう。トーチ棒は、キャンプファイヤー直前に灯油をしみこませて使います。灯油が垂れないように、余分な灯油は新聞紙で布の付け根部分を拭き取るなどしておきます。

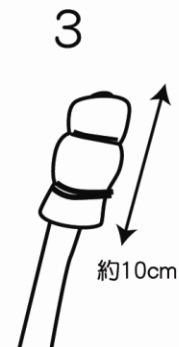


木の棒
1mくらい
生木がよい

布の端をクギでとめる



布を巻き付け
針金で縛る



できあがり
約10cm

(3) トーチ棒の扱いについて

火のついたトーチ棒を持つ時は、むやみに怖がったり遊んだりしないように注意し、腕をまっすぐに伸ばして、しっかり握って持ちましょう。また、風向きや周囲の人との間隔に注意しましょう。

